

おいでよ

このまちに

特集 U・Iターン



いま、田舎暮らしを求めている人が増えています。

そんな人たちが、私たちの町

「くすまき」を選んで移り住んでほしいです。

生まれ育ったふるさと「くすまき」に

帰ってくる人たちがいます。

新たにこの町の住民になって、

くすまきライフを満喫している人たちに

それぞれの思いを聞きました。

お盆で帰省している方々も家族と一緒に、

田舎暮らしを考えてみてはいかがでしょうか。

佐藤さん夫婦の農業に対する思いが名前に
なった3人の子どもたち（左から長男・拓土
君（小屋瀬小3年）、2女・里咲ちゃん（5）、
長女・牧さん（同小5年）

佐藤和人さん・英美さん

花巻市と千葉県からUターン歴12年

離農した人から住宅と牛舎、農地6割余り丸ごと買い取って酪農専業農家になった佐藤和人さん（48）。平成8年、花巻市から土谷川に移り住んだ。千葉県のサラリーマン家庭に育った妻・英美さん（40）とは「夢は放牧」と同じ志をもってやってきた新規就農者だ。酪農を始めるに当たって土地取得などで県や町の支援制度を活用。一昨年12月、新しい牛舎も完成し、牛も20頭ほど増え成牛40頭、仔牛15頭と経営拡大した。「酪農をしたい人はまだまだいっぱいいるので、県や町では農地や住宅の情報をしっかり提供してほしい。本人のやる気さえあれば必ず成功するはず」と新たに農業を始めたい人へ思いを伝える。「これからの農業、飼料計算や申告など頭を使わないとうまく経営できないよ。まだまだ普及所や行政にお世話になりっぱなし」と苦笑い。葛巻で生まれた3人の子どもたちも目の前に広がるわが家の牧場が大のお気に入り。佐藤牧場・親子5人の笑い声がこだましています。

酪農盛んなくすまきで 放牧の夢をかなえたい

子育てはやっぱりくすまきがいい みんな、ここで一緒に暮らそうよ

Uターン

長男の小学校入学をきっかけにふるさとへ。

一昨年の十二月、神谷尚宏

さん（27歳）は同い年の妻・

李恵さんと長男で小学二年の

良歩君の三人で帰ってきた。

「仙台と盛岡、周囲は知らない人ばかりの暮らしを六年

ほどしました。寂しかったよね。ここは両親や親戚などみんながいろいろ教えてくれるので安心です」と喜ぶ李恵さん。

今年二月に二男侑良くんを

出産し「いつでも小児科の先生

がいてくれたら」と願う

一方、「健診や予防接種など、

保健センターの対応はとっても

親切」と、町から個別に送

付される受診案内を評価する。

夫婦そろって大の大好き。

神谷家では、この夏ガーデンパーティーが絶えない。友人や親戚などを招いてにぎやかに交流を深める。

七月のミニサッカー大会で、

大量得点を挙げて大活躍の良

歩くん「運動神経は俺似だ」と

と胸を張る義次さんは「息子

と一緒に晩酌ができるし」と

目尻を下げる。「家族が増え

て、にぎやか」と孫の侑良く

んを抱っこする和代さんも満

足そうに微笑えむ。

スポーツ少年団葛巻タイガースで野球を始めた良歩くんの追っかけに余念のない尚宏さん夫妻は、雫石町に住む李恵さんの両親に孫の顔を見せに足を運ぶ回数も少なくなりそう。

尚宏さんは商工会青年部な

どの活動にも積極的に参加。

「大変だけどみんな自分たち

の町を活気づけようと一生懸命で楽しい。この夏もビール

まつりやまちなかのイベント

などで、町を盛り上げたい」と

意気込む。

「若くして結婚したからき

ずなは深いね。年を重ねたと

きお互いを尊敬できる存在で

いたい」とお互いを見つめ合

う二人だ。

実家の自動車整備工場で働

く尚宏さんは二級整備士。八

月の自動車検査員資格試験に

向けて目下猛勉強中。「町内

で暮らす同級生は四、五人だ

け。もっと町に戻ってきてく

れて、中学校時代のようにみ

んなでこの町で暮らせたら」

と願いを込め「子育てには

やっぱり家族や地域の力が必

要」と、自身はこの町で暮らすと決めた。



U・Iターン歴1年7カ月

神谷尚宏さん 李恵さん

かんや・なおひろ りえ

葛巻中学校から県立盛岡工業高校、仙台市の自動車整備専門学校を経て盛岡市内の(株)岩手いすゞ自動車にて整備の腕をみがく。平成19年12月、妻・李恵さんと長男・良歩くんの3人で帰郷。実家の自動車整備工場にて整備士として働く。(田の沢在住)